

9月議会報告特集

当事者の切実な声に背き

「宿泊税」条例

自・公等の賛成多数で可決

共産・県民の声・立憲無所属クラブ

連携して条例案撤回求めて攻防

議会最終日、反対する多くの宿泊事業者の声を踏みにじって、自民・公明・21世紀クラブ・維新等の賛成多数で、「宿泊税条例案」が付帯意見をつけて可決されました(各議員の賛否は別表)。

共産・県民の声・立憲無所属クラブの3会派は、宿泊税関連予算を減額した補正予算修正案の提出、宿泊税条例案の継続審査の動議などを繰り返し、共産党県議団が条例案の反対討論を行うなど、連携して成立阻止のために奮闘しました。

罰則規定の説明なしに可決は暴挙

さらに、特別徴収義務者となる宿泊事業者に対する罰則規定や徴収できなかった際のリスクを説明してこなかったことを追及すると、当局は「施行までの期間で説明するつもりだった」と弁明。このような県の進め方に対し、「宮城県・宿泊税を憂慮する会」から「不誠実な対応に強い憤り」「こうした状況のまま、宿泊税が導入されることを容認できない」と、憤懣やるかたない思いが各会派に直接届けられました。

知事の「7割の事業者の理解」訂正へ

党県議団は代表質問・一般質問・予算特別委員会で、県内宿泊者数が回復しているのは、仙台市内の一部地域に限定されたものであることに加え、知事が繰り返し強調してきた「7割の事業者の皆さんが概ね理解・賛同」との説明も恣意的なものであることを指摘。「7割賛同は正確とは言えない」と知事も訂正を余儀なくされました。

知事からは「一旦この内容で認めていただき、結果として宿泊税を導入して良かったと思えるようにしていくので、信頼していただきたい」旨の発言も繰り返されましたが、この間、さんざん信頼を損なうような進め方をしてくる、まさに「どの口が言うのか!!」といわざるを得ません。

この状況での強行導入は必ず禍根を残し、観光振興で一丸となるべき観点で、党県議団は宿泊税に「反対」を貫きました。光業界に分断を招くとして、党県議団は宿泊税に「反対」を貫きました。

第119号議案「宿泊税条例」案に対する表決状況一覧

Table with 4 columns: 議員名, 選挙区, 結果, 議員名, 選挙区, 結果. It lists 40 members and their voting results for the 'Accommodation Tax Ordinance' bill. The final tally is 40赞成 (赞成) and 17反対 (反対).

日本共産党 県議団ニュース 2024年11月 NO.160 発行: 日本共産党宮城県会議員団 (控室) TEL 022(211)3523 FAX 022(268)6093 E-mail: info@jcpmk.jp

県議団ホームページよりご意見ご要望などお寄せください。 QRコード

政調会長: 三浦一敏 (石巻・牡鹿) 幹事長: 天下みゆき (塩釜) 団長: 藤原益栄 (多賀城・七ヶ浜) 副団長: 金田もとる (仙台青葉) 副幹事長: ふなやま由美 (仙台太白) 副副幹事長: 高橋啓 (加美)

避難計画の見直しもないまま

女川原発の再稼働は許されない



六ヶ所村「核燃料サイクル施設」視察(9月)

脱原発をめざす宮城県議の会

学習会(7月)



国と東北電力、そして県が強引に押し進める女川原発2号機の再稼働。11月の再稼働が目前に迫る中、党県議団は9月議会において再稼働は断念を訴えました。

今年1月の能登半島地震をふまえて、道路損壊による避難経路の途絶、屋内退避しようにも損壊した建物内では避難のしようもなく、住民が被ばくを強いられる「避難計画・緊急時対応の見直しもないままに2号機の再稼働に進むのは許されない」との追及に、「私は許されると考えている」と答える知事。220万人の県民の命を預かる知事の言葉とは到底思えない発言でした。

行き場のない「核のゴミ」増やすな

「核燃料サイクル」の破綻を目前に、国内の各原発は使用済み燃料の貯蔵能力の拡大を進めることが余儀なくされ、今年2月に東北電力からも

女川原発2号機における使用済み燃料乾式貯蔵施設の設置についての(宮城県ならびに女川町・石巻市に対する)事前協議の申し入れがありました。これまで、県は「使用済み燃料は再処理することになっている。女川原発の敷地内には残らない」との説明を繰り返してききましたが、敷地内への乾式貯蔵施設の設置は「女川を核のゴミ捨て場にしかねないものです」。

党県議団は、使用済み燃料をこれ以上増やすことは認められず、また「敷地内には残さない」との立場を貫くことを求めましたが、知事からは「核燃料サイクルや原発の稼働の是非を含む原子力政策については、国において総合的に判断される問題」「敷地内での乾式貯蔵は一時的なもの」と東北

電力から説明されており、使用済み燃料対策も国が前面に立って主体的

に対応していくもの」と、ここでも全ての判断・対応は国の責任とする答弁

に終始しました。

知事 肝いりの

JSMCホールディングス 半導体工場誘致は頓挫

議会中に突然

「工場計画白紙」判明



大企業優遇の補助政策は問題

超えるとされていた事業

の頓挫に、知事も「まさかこのようなことになる」と夢にも思っていなかった」と述べましたが、経済的なメリットばかり強調し、半導体バブルに踊るあまりに、昨秋の基本契約の内容も含めて様々な検証がなおざりにされていたのではとの感否めません。

今年度予算では、知事のトップセールスが奏功して誘致に至ったと喧伝されているJSMC社(SBIホールディングスと台湾のPSMCとの合同会社)の半導体工場を中心に関連企業のさらなる誘致や人材育成をすすめるとして「みやぎシリコンバレー形成支援事業」に3億2千万円余が計上されていました。9月議会で党県議団は代表質問(9/26)で、JSMC社の工場進出に関するインフラ整備について、県として同工場で使用する大量の水を確保するために、麓山浄水場の濁度低減処理施設の増設と県工業用水の配管を一部拡大して敷設替える計画に伴う県の財政負担等を質しました。

また、7月に県議会議長がJSMC社の役員を訪問を受けた際の説明資料(7/19付)に「政府からの一定水準以上の補助金交付を受けることが本事業の前提」との記述があったことから、「一定水準」とはどのような水準を指すのか? 「一定水準以上の補助金交付を受ける」との前提条件の確認はだれがどのように行うのか? また、確認できない場合に事業は止まるのか? 知事はJSMC社と日本政府の交渉の経緯と中身について承知されているのか? と質問。それに対し、経済商工観光部長は「経産省との交渉経緯や内容については、現在、最終的な協議が行われており、事業実施の判断はその結果を踏まえてJSMC社が行うものと認識している」と答えていましたが、その翌日の9/27にPSMC社から宮城県での半導体工場事業からの撤退を表明されるに至りました。投資総額9千億円を

「再審法の改正を求める意見書」を全会一致で採択

会期中に強盗放火殺人犯として死刑判決を受け、再審を求めて闘ってきた袴田巖さんの無罪が確定しました。事件発生から58年を経てのことでした。

意見書では、再審請求手続きの障壁となっている証拠開示のルールを定めることを求め、また、免罪被害者の速やかな救済を妨げている検察官の不服申し立てについても言及するものとなっています。

「高等学校段階における一人一台端末の公費負担の充実を求める意見書」も共産党県議団の原案を他会派が修正して全会一致で採択されました。

SBIホールディングスは新たな提携パートナーを探しており、県内での半導体事業の展開を断念したわけではないとも報じられていますが、自公政権が進める「経済安全保障」政策の下で膨張し続ける大企業補助金と

基金残高の問題と、国に追従する県の姿勢も問われる事態となっています。党県議団としても個別の大企業に対する巨額の補助金の問題と併せて県の対応について検証を進めていきます。



命と福祉を守り ジェンダー平等の県政へ

老朽化した県立精神医療センターは 名取市内で建替えを今すぐ決断せよ

県立精神医療センターを賃合に移転させ東北労災病院と合築する再編は、人員体制、医療・地域包括ケアの提供の点や経営的にも成り立たないことは明白です。

患者や関係者の粘り強い運動で、6月議会で知事は「患者ファーストで多角的で柔軟な見直しを行う」と表明。県の再編構想は患者・家族に不安と苦しみを与え、体調悪化で入院を繰り返す方もおられます。党県議団

懸念されるがん医療・周産期母子医療の後退

周産期母子医療の後退

知事は県立がんセンターを廃止し、仙台赤十字病院が経営主体となる新病院の開院時期を2年間延期し2030年度になると表明。

県立がんセンターはがん登録室、患者サポートセンター、緩和ケアセンター、がんゲノム医療、研究所などの機能を有し、東北唯一のがん専門病院として大きな役割を果たしています。党県議団ががんセンターの廃止により担っている機能が後退するのではないかと厳しく質したのに対し、保健福祉部長は「県全体

は、候補地を提案し名取市内での建て替えを今すぐ決断せよと迫りました。知事は再編構想の撤回を表明せず。保健福祉部長は「本院の機能を名取市内に設置した上で、県北部の患者の精神科医療にも対応する形も含め検討中。仮に名取市内に本院機能を残す場合、建替用地の確保や身体合併症対応などの課題がある」と答弁しました。引き続き再編構想の撤回を求めています。

でがん医療の水準を確保する。東北大学病院など

危機に直面する訪問介護事業を守れ

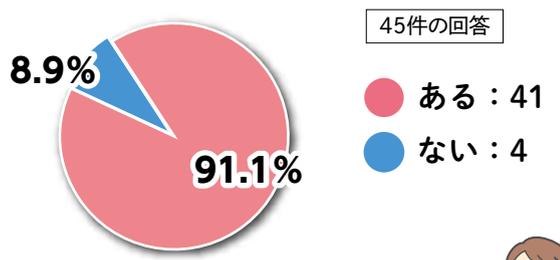
この役割分担・連携を検討する」と答弁。党県議団は仙台赤十字病院が仙台市外に移転することにより人口10万人あたりの総合周産期母子医療センターの数が、全

国20政令指定都市中、仙台市は現在の6位から15位に低下し、政令市の周産期医療の後退で県内の深刻な少子化を加速させてしまうと厳しく指摘しました。

今年4月に訪問介護報酬が2%から3%も引き下げられ事業所の倒産が相次いでいます。党県議団が県内訪問介護事業所にアンケートを実施したところ、介護報酬引き下げの影響ありは91.1%、サービスの申し込みを断ったことがある事業所は7割を超える深刻な状況です。安心の介護を守るために、知事に対して①全国知事会長として訪問介護事業の報酬引き上げの臨時改定を国に強く求

めること②介護事業所へのガソリン代、光熱費と資材高騰への支援、人員確保のための県独自の支援を決定することを強く求めました。それに対して、村井知事は全国知事会として、訪問介護等における基本報酬の臨時改定等の措置を講じるよう要望した、引き続き国に要望すると答弁しました。安心の介護を守るために、事業者の皆さんと一緒にがんばります。

この度の訪問介護の報酬引下げによる影響はありますか



現場からの切実な声

- 「影響は事業所にありました。職員の給料は上がりましたが、事業所は下がったまま。ガソリン代もそうですが、電気光熱費は上がっています。このままだと、事業所の存続ができなくなり、利用者様にご迷惑をかけてしまいます。どうやって存続させればいいのかのしょう!」
- 「ヘルパーの高齢化(最高年齢78歳、平均年齢64歳)で、雪の日の訪問が怖い。15キロ以上のあまりにも遠いところには行けない」
- 「就業日、休業日のシフト調整ができない」
- 「9月いっぱいまで閉所となった。辛い」

県内で訪問介護事業所数が
 ゼロの自治体： 村田町、丸森町
 1カ所だけの自治体： 七ヶ宿町、川崎町、大衡村、色麻町、女川町 (8/27時点)



年度任用職員は知事部局と教育庁あわせて3021人です。非常勤講師やスクールカウンセラーなど専門職が不安定な雇用となっており公務労働にふさわしい処遇の改善、非正規職員の正規化と男女賃金格差是正は急務となっています。

党県議団はDVなど困難な問題を抱える女性を支援する女性相談員の2024年平均時給額は1379円であり、経験年数8年の女性相談員に対する国庫補助基準額の概ね時給1576円と比較しても、203円も低くなっていることを指摘し、改善を求めました。それに対し、保健福祉部長は「相談内容も多様化しており、専門的知識と経験を有する人材を確保する観点から、より一層の処遇改善に努める」と答弁しました。

パートナーシップ条例の導入を

宮城県内企業の労働者の男女の賃金格差は男性を100とした場合、女性性は76.1で、東北6県では下から2番目。県の知事部局で働く職員の非正規率は約2割で、会計

LGBTQなどの同性カップルに対して「結婚に相当する関係」と認定し公的サービスが受けられるようにするパートナーシップ制度を実施する自治体数は全国459(人口の85.1%)に増え、福島県も導入を決めており、東北6県で制度がないのは宮城県だけです。党県議団はパートナーシ

ップ制度の導入はもとより、当事者の意見を反映させ、子どもとの関係を含むファミリーシップ制度を導入せよと求めました。村井知事は「反対の意見もあり県民の理解は進んでいない。県民の理解増進に取り組み。市町村や関係団体と意見交換を行いながら検討を進める」と答弁しました。

三浦一敏

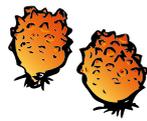
海水温上昇で予算増を求める



予算特別委員会の総括質疑に立ち、宿泊税導入には、特別徴収義務者となる宿泊事業者の理解が決定的だが、説明会を重ねるほど不満・批判が広がる指摘。石巻市での3回目の説明会では参加した17人中、賛成は1人だけだと示し「これが実態だ」と批判しました。

4病院再編などでも傲慢な村井知事のやり方に多くの批判の声があがっていると指摘し、「宿泊事業者の理解なしに宿泊税を導入してはいけません」

また、温暖化による異常な海水温上昇対策を支援する養殖業環境変動緊急対策費3187万3000円を歓迎し、「ホヤやホタテが壊滅的打撃で深刻だ」と強調、予算の増額を求めました。



天下みゆき

深刻な「教員の未配置」解消を



産休や育休、病休等の代替講師が配置できない「教員の未配置」が深刻です。県内の小学校・中学校・高校・特別支援学校の今年5月1日現在の未配置数は17人、10月1日現在では57人上っています。年度始めから常勤講師1074人と非常勤講師1023人が配置されており、年度途中の更なる配置が難しくなっているのです。

また、「教師を志す高校生支援事業」や「復職支援制度」の創設など教員を増やす総合的な対策強化を求めました。

年間600人を超える産休・育休・病休等が発生していることから、「県の独自予

金田もつる

農業支援策の強化、営農意欲をつなげる鳥獣被害対策を



代表質問では、今夏のコメ不足が一過性のものではなく、自民党農政の下で生産基盤が弱体化させられてきたことに原因があること、生産を下支えする価格補償、所得補償をおこなって生産基盤を強化することなくしては来年もコメ不足が再燃する可能性が高いことを指摘し、国に農業予算の抜本拡充を求めること、県としても農業予算を拡充することも求めました。

また、野生鳥獣による農作物被害は、2023年度の速報値で1億3209万円となっており、営農意欲の減退や耕作放棄地の拡大に進展し、離農の増加にもつながり、農作物被害額として数字に表れる以上に農家に深刻な影響を及ぼしていることを指摘しました。農家の方々の営農意欲をつなげる上では、従前の鳥獣害防止総合支援事業交付金による市町村支援、集落ぐるみの鳥獣被害防止対策推進支援事業等といった取り組みに加えて、より一層の支援策の充実をと求めました。

藤原益栄

水道民営化の弊害を追及



引き続き「民営化」後の「県水道事業問題」に取り組んでいます。R5年度決算では、利益が2億4800万円でしたが、内部留保資金は25億円も増えました。企業債元金償還額が減価償却費を下回るようになり、手持ち資金が急増、233億円になりました。他方宮城県の水道料金は全国一高いことが改めて明らかになり「黒字分は料金引き下げに」と主張しました。

R5年度決算の質疑で「水道民営化」の弊害が次々と明らかになりました。①直営時代と比べ水道事業県本体会計

は15億円も利益が減ったが、民間会社は8億円の利益を上げた②民間会社の利益率は27%で（売上は29億円）トヨタの約3倍③民間会社が払った2億円の税金は結局県民の水道料金負担④民営化したとたん、維持管理費は9億円から21億円に倍増した等々です。県民の財産が民間会社に移されている実体が明らかになりました。自公政権は「民営化」を全国全市町村にまで広げようとしています。「徹底説明が阻止に繋がる」と奮闘中です。

ふなやま由美

秋保長袋地域へのメガソーラー計画はストップを



秋保地域の600haもの市街地調整区域にメガソーラーと蓄電池製造工場計画が浮上し、住民の皆さんが「豊かな自然の里・秋保を守れ」と反対の声を上げています。事業者は3月にたった1回の地権者向けの説明会をしたきりで、その後は事業者が電話をかけてもつながらない状況。太陽光発電計画の届け出や環境影響評価は仙台市が行いますが、森林法に基づく林地開発許可は県の仕事です。「多賀城市域面積の1/3程に相当する600haもの森林を伐採する本計画は、環境破壊そのものであり許すことがあってはならない」と知事に強く迫りました。引き続き秋保の自然環境を守るために取り組みます。

「こども食堂」への県の支援が4月から打ち切りとなっていました。補正予算で復活することに。前回より減額となったことは残念ですが、物価高と燃料代高騰、コメ不足など運営が困難になっている現場の声を届けて復活できたことは、とてもよかったです。

第393回 宮城県議会について

10月17日に閉会した県議会では日本共産党宮城県議団は、提案された議案25件中20件に賛成、2件（補正予算、宿泊税条例）に反対し3件の決算を不認定としました。

宿泊税条例案に対する継続審査動議が出され賛成しましたが否決。原案に対し一面既報の趣旨で反対討論しました。また補正予算では、任意取得のマイナンバーカードに紐づくミニアプリ登録に地域ポイントで誘導することは適切ではないと反対しました。

令和5年度決算には、①「社会全体で支える宮城の子ども・子育て」を重点政策に掲げながら本気になって取り組む姿勢が見えない②宮城の基幹産業である農林水産業を軽視している③「民間の力」と言って大企業優遇を進めている④能登半島地震の教訓を踏まえ

に女川原発の再稼働を進めている⑤宿泊税・4病院再編・県営住宅廃止など当事者や関係者の意見がないがしるろにして強行しようとする村井県政の行政運営の進め方、と5つの理由を挙げ反対しました。

なお、4つの意見書『私学助成の充実強化に関する意見書』『刑事訴訟法の再審規定（再審法）の改正を求める意見書』『高等学校段階における1人1台端末の公費負担の充実を求める意見書』『自動運転移動サービス等の社会実装に向けた環境整備を求める意見書』は全会一致で可決されました。一方、当会派が提案した『ゲノム編集技術応用食品の表示等の適正化を求める意見書案』、賛同した『訪問介護の基本報酬の引下げの早急な見直し等を求める意見書案』は政調会長会議で不調となり議会提案に至りませんでした。